# 丸山湿原群保全の会会報

（第 160 号）

発行日：2020 年（R2）11 月 18 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

霜月とはよく言ったもので、霜が降り始めました（気候変動の時代ですが）。ん？これは旧暦で生まれた呼び名。約ひと月早いのでは？現在はグレゴリオ暦（新暦＝陽暦）。日本は南北に長く標高差も大きい。西谷は新暦が旧暦の呼び名に合っているのか。都が京都の時代に生まれた呼び名なのか、奈良の時代かは知りませんが都にぴったりの呼び名だったんでしょうね。

11 月は多くの呼び名を持つようです。その中で面白いのが「神帰月（かみきづき）」。10 月の「神無月」に対する呼び名のようです。10 月は「神去月（かみさりづき）」とも言うそうな。納得。では「神在月」だった出雲では 11 月はどうなるのでしょうか？出雲の方おられましたらご連絡を！（実際には 11 月末に「神在祭」は行われるようです。出雲をお立ちになるときは「神等去出（からさで）祭」も）ま～普通に「霜月です」と言われそうですが、実際は 11 月が神在月？

何のことかよくわからなくなってきましたが紅葉も終盤、いよいよ冬将軍の到来か？コロナ禍の中、インフルエンザの蔓延も心配されます。冬に暖房をつけながらの換気は大変。くれぐれもご用心ください。

（今住　11 月 17 日作成）

## 定期活動

### ★10 月 25（日）定期活動　12 名で活動　湿原周囲の歩道・木道周り下草刈り

**秋晴れです！**気持ちも軽やか、**ウメバチソウ（梅鉢草）**が微笑んでくれています。盛りを迎えているのか、花びらの散った個体もちらほら。とても花期の長い花。**毎年書いていますがその残り香？（散った後）も魅力的。飾り雄蕊の美しさと子房の膨らみ。先端は赤くなり「唇」の様。**最近、種名で「クチビルとクチベニ」の混乱（私だけ）が続いていますが、今回は感覚。「口紅をつけているみたい！」と言っていただいても大丈夫です。

ウメバチソウ

セクシーな子房と飾り雄蕊

**監督は、湿原にたどり着くなりルンルン気分でスキップ！**しかし、**この後、恐怖（貴重な？）体験**が待っているとは。誰も思いもしなかった･･･。

**恐怖体験はのちほどとして、作業は第４湿原木道に覆いかぶさったススキや低層木本類の処理。**秋らしくていいのでは？という意見もありましたが、子どもはほぼ藪漕ぎ状態になるので刈り取りました。**こちらは手作業。刈り払い機２台とノコギリ作業は、第１湿原と第２湿原の分岐付近のササ刈りで。**二手に分かれての作業となりまし

心が弾むるんるん監督　この後･･･

井戸端会議　失礼！真剣に作業中

た。この日は意外にハイキングの方も少なく落ち着いた井戸端会議、いや活動になりました。

視界がクリアな分岐点

**第４湿原の作業を終え分岐点の作業場に行ってみると、さすが機械中心の作業、効率よくきれいになっていました。後日「松茸山」を受けて（入札）おられるご近所の方に、「きれいに刈られていますね」とお褒めの言葉もいただきました。**「松茸（まったけ）出てますか？」と聞くと「全然」と。**松茸の情報は「ひ・み・つ」。ひょっとすると大量に出ているのかも？**今年は東北・長野・広島では豊作とのこと。丹波もか？さて、西谷はどうでしょう…。やはり雨の時期と暖かさ（気候変動）でダメになっているようです。でも真実は？ひ・み・つ！**11 月 15 日までは採ると窃盗になりますのでご用心。その後は猟期になりますのでこちらもご用心。実は丸山湿原周辺は鉄砲も OK です。最近は発砲少ないですが…。**

猟期といえば、**監督の恐怖体験**。作業中、周辺の見回りに出かけていたところ、**鉄塔周辺でシカ（鹿）に遭遇、にらまれたとのこと**。雄か雌か不明ですが立ち向かうことなく、引き揚げてきたようです。正解です。イノシシ（猪）じゃなくてよかった。イノシシだったら命がけになります。

看板アプローチもばっちり

今年はイノシシの当たり年。**昨年はコナラのドングリが大豊作で栄養満点。多産だったのか？**多くのイノシシ（ウリボウ？）の痕跡が見られます。田んぼ、畑地、栗山にも…。**やはり害獣？しかも今年はドングリ不作。生きるために必死なのでしょう。**

山で野生動物（特に大型）に出会ったときは恐怖。そののち感動。姿が見えず、気配（音・匂い・足跡）だけでも気分は高揚しますが、やはり「よしよし」とはならないもの。シカも西谷に増えています。「害獣」という表現はどうかと思いますが、頭数管理（狩猟）も含め、うまく棲み分けられることを願います。**山林利活用（整備）も方策か？**

シカとの対決に向けスキルアップ！

**おっと監督でした。**遭遇後、連絡を受けすぐ捕獲に！とはいかず「ふ～ん」。その後今の自分のスキルでは野生生物に立ち向かえないと考えたのか、大先輩にノコギリの使い方を習っていました。将来ぜひ猟師免許を取ってください。でも、**大型動物を殺すのはなかなか根性いりますよ。みんな食べているけどね。そこが難しい問題。「害獣駆除」を声高に言っても、全て人任せでは何か違うような気がするのですがどうでしょうか。**ちょっと話がシビアになりました。

コウヤボウキ

ホソバリンドウ

本題。作業終了後観察。歩道脇には**コウヤボウキ（高野箒）**の花、**サルトリイバラ（猿捕茨）**の実が彩りを添えていました。**ヤマウルシ（山漆）**も見事に紅葉。まさしく秋本番の日でした。花は**ホソバリンドウ（細葉竜胆）**、**センブリ（千振）**が第４湿原で見られまし

センブリこれは苦い　胃薬効果は？

た。ササの刈り取りで年々増えてきています。**目立つ割に陽の当たり具合で意外に見つけられない花です。「ある」と思うと見えてきます。**11 月いっぱいは楽しめると思います。無理かな？さらに、咲くと残念（私感）なキクバヤマボクチ（菊葉山火口）、ブログで間違えたクチベニタケ（口紅茸）。ヤブムラサキ（藪紫）の実が色づき始めていました。

花が残念キクバヤマボクチ

クチベニタケ　唇やけどな~？

**この日の締めは昆虫。ヒメツチハンミョウ（姫土斑猫）登場。「道教え」のハンミョウとは全くの別種**ですのでお間違いなく。**面白い生態を持っています。**以前は、マルクビツチハンミョウを紹介していますね。（136 号）前回は写真のみ。前回のもヒメツチハンミョウかな？自信がない。ま~とにかく**ツチハンミョウの仲間。体液にカンタリジンという毒を持っています。素手で触ると水ぶくれなどになるそうなのでお気を付けください。結構すごい毒。ほんの少しで致死量だそうです。**

触ると危険ヒメツチハンミョウ？

色づき始めヤブムラサキ

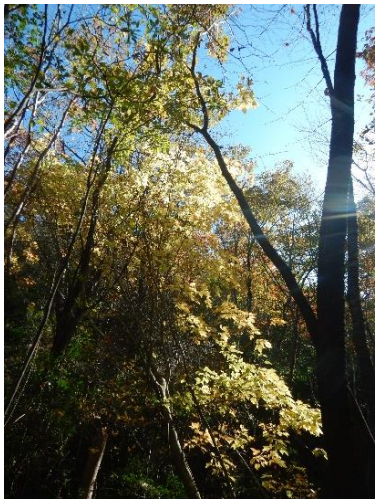
**ところが、**江戸時代大奥で「若君」の謀殺などに使われた**毒薬「斑猫の粉」**は、「道教え」などのハンミョウの粉末だったそうで無毒の毒薬？ことごとく失敗していたようです。中国から書物（本草綱目）で紹介されたとき、日本のよく似た「無毒の甲虫」に、ハンミョウと名付けたことからの間違いだったとか。昆虫食で栄養にはなったので全くバレなかった？毒虫（ツチハンミョウ）の方は今でも漢方薬として使われているそうです。ちなみに中国の書物（本草綱目）の記載は、ツチハンミョウ科のキオビゲンセイのようです。本も虫も見たことないけど･･･。

**定期活動**　**★11 月 14 日（土）定期基礎調査　９名で活動**

| 目的 | 市内 | 市外 |
|---|---|---|
| 丸山 | 58 | 23 |
| ハイキング | 10 | 15 |
| 散歩・登山 | 38 | 23 |

**来場者数　計 167 人**
**（竹筒ポスト人数）**

| 場所 | 時間 | 気温【水温】 | 電気伝導度（EC） | PH |
|---|---|---|---|---|
| 入口 | 9：55 | 13.6℃ | | |
| 第３湿原 | 10：25 | 【12.0℃】 | 35.6μS/cm | 6.7 |
| 視点場 | 10：38 | 19.5℃ | 31.1μS/cm | 6.7 |
| 第１湿原 | 10：50 | 【11.4℃】 | 32.2μS/cm | 6.7 |
| 第２湿原 | 11：18 | 【10.8℃】 | 36.6μS/cm | 6.6 |


タカノツメが美しい

**この２週間で一気に冬？霜も降り、紅葉した葉が音を立てて散っていきます。**茶色の草本類も陽光に当たるとまさしく金色。そんな中、**冬ごもり（越冬）の準備かオオスズメバチ（大雀蜂）の女王様？**や**キタキチョウ（北黄蝶）、テングチョウ（天狗蝶）**などが目につきました。寒い冬、どう乗り切るのでしょうか？

トンボは**ヒメアカネ（姫茜）**が多数。こちらはまだ産卵に励んでいました。**成虫は冬を越せません。命のつなぎ方も色々ですね。**

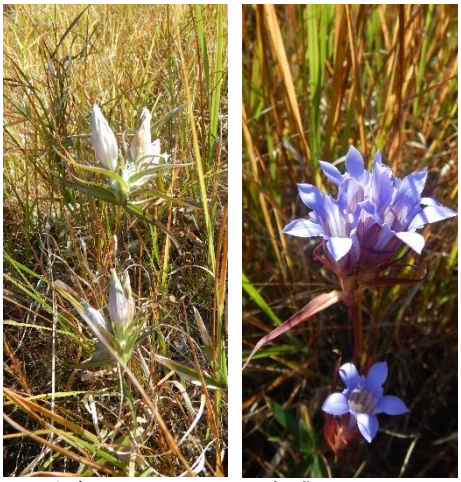
金色の野原で計測中

イノシシ耕運機の実力

**湿原のデータは至って穏やか。**決して水（雨量も）は多くありませんが、安定した状態です。

気になるのはイノシシ。成体かウリボウかは不明ですが、いたるところを掘り返しています。適度な攪乱かダメージか？畑のように耕しているところもあります。しかし、水の中に入り「ぬた場」を作っている様子はありません。やっぱりウリボウと考えるのが妥当でしょうか？警戒心の強い生き物です。その割に家の前まで荒らしていますが…。人間は警戒対象ではない？なめられてますな。

まだまだ健在ウメバチソウ


霜降りリンドウと全盛リンドウ

**花はウメバチソウが終盤。**もう蕾は少なくなりましたが、開花中のものは多数。多くの種を残しそうです。**リンドウも霜に当たって白くなったもの、まだ開花中のものが見られます。**

**センブリも霜にやられたのか、花はしぼんだままのものばかり。**やはり終わりか。種が落ちるのを待って刈り取り予定です。

葉が落ちそうなヤブムラサキ

前回色づき始めだった**ヤブムラサキはずいぶん大きくなり色も濃くなりました。葉が落ち、実だけ残るのも間もなくのようです。**ヤブムラサキは歩道脇に多く確認できます。ビロードの葉っぱももうお終い！

「下に～下に～」　センボンヤリの毛槍

**タンポポの種（ぼんぼり）のようなものを発見。**これはセンボンヤリ（千本槍）の種（正しくは痩果）だそうです。**センボンヤリは春にはタンポポ（白花）のような花を咲かせますが、あまり種を作れないそうです。ではこの「ぼんぼり」は？なんと秋にも閉鎖花を咲かせ？ます。槍のような。花は開かずに自家受精。クローンになります。**その種がこの「ぼんぼり」。槍のような閉鎖花を見たてて千本槍かと思っていましたが、「ぼんぼり」種を毛槍に見立てたそうです。大名行列の先頭で「下に～下に～」と奴（やっこ）さんが振っているやつね。**種（しゅ）の多様性維持のため春の花を咲かせるようです。**謎は多い…。

吐息も切れないトキリマメ

**最後に見つけたのがトキリマメ（吐切豆）。つる植物。マメ科タンキリマメ属。タンキリマメとそっくりだそうで（タンキリマメを私は知らない）。葉っぱの先が急に細くなり尖るのがトキリマメ。**

名前の由来は、「痰切り」に対し「痰を吐き出す」（諸説あり）から来たとか。私は「吐息を切る」精神安定剤かと思いました。民間薬として使われていたが薬効はない（不明？）とか。タンキリマメも「痰切り」には効果がないそうです。珍しい植物ではないようですが、草刈りが頻繁に行われる場所では実を見つけるのは難しいらしい。花はマメ科そのもの。小豆の花によく似ています。小豆の花ってどんなん？

**次回活動**　11 月 22 日（日）　12 月 12 日（土）27 日（日）年末ですなぁ～　コロナはどうなる？